

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	小学校教科担当制推進事業			事業番号	09-101
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	教育部学校教育担当	石渡 誠一	教育指導課	今井 仁吾	

計 画 (Plan)

総合計画体系	暮らし力	まちづくり目標	1	誰もが明るく暮らせるまち	
		基本政策	3	人がつながり未来を拓く学び合うまちづくり	
		施策展開の方向	5	子どもの生きる力をはぐむまちをつくる	
		施策	9	きめ細やかな教育の推進	
予算事業名	小学校学習活動支援事業費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→			法令上の位置づけ	実施する規定はない
事業開始年度	開始年度	～		終了年度	—
関連法令等					
国・県の計画等				計画期間	
関連個別計画	伊勢原市教育振興基本計画			計画期間	平成30～34年度
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	小学校における児童指導上の課題の増加や、中学校進学時のいわゆる「中1ギャップ」への対応については、全国的に見られる近年の重点課題となっています。その解決のために、小学校高学年において教科担当制を推進し、複数の教員によるきめ細やかな学習指導、生活指導の充実を図る必要があります。				
目的 (何をどうしたいのか)	学力の向上と円滑な中学校生活への適応を支援するため、各小学校に教科担当制を導入し、複数の教員によるきめ細やかな学習指導・生活指導を行います。				
主な対象 (誰・何を対象に)	市内小学校児童				
事業内容 (手段、手法など)	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校高学年において教科担当制を推進し、中学校教員が小学校を兼務するA方式と小学校に非常勤講師を配置するB方式を実施することで、学年の教員が教科を分担し、互いの学級で授業を実施しやすい環境を整えます。 ・事業の拡大を図る中で、小学校に配置する非常勤講師が2校を兼務するC方式など、より効果的な取組を実施します。 				
事業行程	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	実施校への非常勤講師の配置	3人配置	4人配置 (1人2校兼務)	4人配置 (4人2校兼務)	
目 標	【指標名】	【現状値】	年度		
			平成30年度	令和元年度	令和2年度
	小学校教科担当制に係る非常勤講師の配置校数	3校 (平成29年度)	3校	5校	8校



事業実施 (Do)

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)					
実施方法 〔選択・記入〕	<input checked="" type="checkbox"/> すべて直接実施 <input type="checkbox"/> 左記以外				
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者		
	<input type="checkbox"/> 補助金		補助先		
	<input type="checkbox"/> その他		具体的内容		
実施結果	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	実施校への非常勤講師の配置	3人			
実施した取組の内容	石田小学校、大田小学校、竹園小学校に非常勤講師を配置し、高学年以上を中心に教科担当制を取り入れ、教員の教材研究の充実と専門性を効果的に活用した授業を実施しました。				
目標の達成状況	【指標名】	【現状値】	年度		
			平成30年度	令和元年度	令和2年度
	小学校教科担当制に係る非常勤講師の配置校数	3校 (平成29年度)	3校		

コスト	年度		平成30年度 実績				令和元年度 実績				令和2年度 実績				
	事業費合計 (a)		7,976		千円		0		千円		0		千円		
	内訳	国県支出金 ①		0		千円		0		千円		0		千円	
		地方債 ②		0		千円		0		千円		0		千円	
		その他特財 ③		0		千円		0		千円		0		千円	
		一般財源 (a)-①-②-③		7,976		千円		0		千円		0		千円	
	国県支出金の内容														
	その他特財の内容	受益者負担		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無				前回の改定時期							
		その他													
	人件費	正規職員		0.03	人	255	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円
		その他の職員		0	人	0	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円
		人件費合計 (b)		0.03	人	255	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円
	トータルコスト (a)+(b)		8,231		千円		0		千円		0		千円		
	単位当たりコスト	対象数	定義	教科担当制を受けた児童数				単位							
			対象数	512				人							
総事業費 / 対象数		16,076				円					円				

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	A	左判断理由	計画どおり非常勤講師を配置することができました。実践報告書からも、教員の授業研究等の深化や複数教員による児童理解・学習指導の効果が明らかになりました。
実施水準 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	A	他都市事業内容等	近隣他市町村では、小学校における教科担当制を目的として、非常勤講師等を配置している実践例は少ない状況です。
有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左判断理由	児童がそれぞれの教員の専門的な指導を受けることにより、児童の学習に対する興味・関心を高め、主体的な児童の姿を目指した授業づくりと学習内容の定着に努めることができました。また、複数の教員が児童に関わることで、児童理解と指導の充実を図ることができました。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左判断理由	担当教科の割り振りや時間割の組み方を工夫することにより、担当教員で共通理解を図りながら、教材研究等を行う研修時間を確保することができました。特に理科、音楽、図画工作、家庭科など専門的スキルや準備の時間を要する教科については効率的でした。


 取組の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	<p>今後はより一層効率的な方法を検討し、推進していく必要があります。有効性・効率性の観点からは、非常勤講師を配置していない小学校に対し、児童の学力及び教職員の資質の向上における教科担当制の意義を周知します。</p>
令和元年度の取組方針		<p>学力の向上と円滑な中学校生活への適応を支援するため、小中学校9年間を見通したきめ細かな教育を推進する上で、非常勤講師を配置し、小学校における教科担当制の環境整備を図るとともに、伊勢原市全体に拡大できるような効果的・効率的な方式を研究する必要があります。</p>		
所管部長による総評		<p>教科担当制を行うことで、複数の教員で学習指導や生活指導にあたることができ、きめ細やかな指導につながっています。この取組の成果を他校に普及させていくことで、さらに本事業の費用対効果は高まるものと思われまます。このため、引き続き本事業を推進すべきと考えます。</p>		